

ふるさと見て歩き

第26回

頼朝の御家人 岩瀬与一太郎



▲土塁のような遺構（下岩瀬中屋敷）

市内岩瀬地区には白石志摩守の居館跡といわれる誕生寺、そして岩瀬与一太郎の居館跡といわれる城跡があります。地元に残る与一太郎の伝説をもとに歩いてみましょう。

◇岩瀬与一太郎という人物

岩瀬与一太郎は、市内下岩瀬（一説に上岩瀬とも）の生誕と伝えられ、のちに源頼朝の御家人として鎌倉に移り住みました。

岩瀬氏は藤原秀郷五世の孫で太田郷（常陸太田市）に定住した藤原公通の第三子通近が倭文郷岩瀬に住んで岩瀬氏を名乗ったのが始まりと言われます。与一太郎はその子孫で、佐竹三代の秀義に仕えました。

与一太郎については有名な逸話があ

ります。治承四（一一八〇）年十一月、頼朝は平氏追討のため伊豆で挙兵しますが、元来平氏とのつながりの強い佐竹氏は源氏であるにもかかわらず挙兵に参加せず、微妙な立場に置かれていました。頼朝は挙兵に従わない佐竹秀義を討伐するため、秀義が籠城する金砂山城を攻め、落城に追い込みます。秀義は花園城（北茨城市）に逃れて助かりますが、兄の佐竹義政は敵將上総介広常の甘言にのり殺害されてしまいます。義政に従っていた与一太郎ら従者は頼朝軍に捕らえられ、斬首されることになりました。頼朝は捕縛された者の中に音に聞こえた猛者、岩瀬与一太郎をみると、「武士ならば潔く戦って死ぬべきものを、なぜ今捕ま

斬首を待つのか」と問いかけました。与一太郎が答えるには「いま源氏が力を合わせて平氏に対抗しなければいけないときに同姓佐竹氏を滅ぼすとはどういう考えか。いまはみな頼朝公の威勢を怖れ従っているが、のちに必ず反抗する者が出てくるはずである」と無礼を顧みず答えたといひます。これを聞いて頼朝の重臣たちは憤慨しましたが、頼朝は非常に感じ入って与一太郎を御家人に加えたというものです。この話は徳川家康も愛読したという鎌倉幕府の正史『吾妻鏡』に記されています。

◇与一太郎の館？

岩瀬氏の根拠地、倭文郷岩瀬は市内の岩瀬地区であると言われています。ではそこに与一太郎の館もあったのでしょうか。

浄土宗中興の祖、了譽聖岡上人を輩出した上岩瀬の誕生寺は、聖岡の父白石志摩守の居館だったため、その名残りの土塁がわずかながら残されています。この館跡を岩瀬与一太郎の居館跡であるとする説もあります。一方、下岩瀬には岩瀬与一太郎の居館跡といわれる場所があるので、地元の人々が「中屋敷」と呼んでいる家（個人宅）は、周囲に土塁のように見える土手と堀のように見える溝が走り、伝承とは言え中世豪族の居館跡にふさわしい景観を作り

出しています。近くには玉川が流れ、現在は一面の水田地帯。およそ八百年前には湿地の広がる要害の地だったかもしれません。残念ながら発掘調査が行われていないため詳しいことはわかっていません。

岩瀬の地に生まれた与一太郎は、頼朝の御家人になり知行地を与えられて鎌倉に住しました。現在もその地には岩瀬という地名が残り、与一太郎が勧請したと伝えられる五社稲荷神社が鎮座しています。鎌倉の人々は与一太郎の活躍した地として現在も語り継いでいます

（歴史民俗資料館）



▲空堀のような遺構（下岩瀬中屋敷）